

私たちの医療費

国立音楽大学附属中学校 三年 七野 乃映

税金の使い道の中で私が初めに浮かんだのは「医療費」だ。

私は数年前、通っているクリニックの紹介で千葉県の総合病院に治療を受けに行ったことがある。その時、自分の町の役所で手続きをすると払った医療費が戻ってくると言われた。後で役所へ問い合わせると、薬局の領収書も手続きの対象だというのだ。それを聞いた直後、母と私は二人で目をまんまるにして顔を見合わせた。この制度は「子ども医療費助成制度」といつて、子どもの医療費負担を軽減するために、住んでいる自治体が提供する制度のこと。この制度では、健康保険適用後の自己負担額を自治体が助成し、自己負担額が無料または軽減される。しかし対象年齢や所得制限の有無、助成方法などの制度内容は全国で統一されておらず、それぞれの自治体によって異なるというものだ。私はその場にいた父と母に

「こんなこともしてくれるんだね、お金が戻ってくるなんてラッキーじゃん」と言うと言った。

「でも結局は税を払っているから実質は戻って来ているわけではないんだよ。」

すると母が

「じゃあなんでこの制度があるの」と言う

「この制度は子育て世帯の経済負担緩和のためだよ」

と父が言った。確かに今、日本は少子化が進んでいる。その原因の中に社会全体で子育てを支援する環境整備が不十分であるということが挙げられる。

その対策の一つがこの「子ども医療費助成制度」なのだろう。母は

「生きていると何かしら病院にお世話になるけれど、特に子どもの医療費を無償化にする制度がすごくいいよね」と言っていた。

この「子ども医療費助成制度」は父や母、伯父や叔母、私の周りの大人、そしてこの日本という国の大人が納めた税金から出ている。この税金のおかげで病院に行きやすいのはもちろん、子育てのしやすい環境も整えてくれるとてもいい制度だと私も思った。